



子育ての振り返り

昨日、お子さまを
どんな言葉で
褒めましたか？

思い出してみよう！





ことばのチカラ

ことばはコミュニケーションツール

赤ちゃんの時からコミュニケーションを取っておくと、子ども自身が「喋ろう」とすると同時に、保護者の言葉を聞こうとするようになります。言葉を多く覚えると、自分の気持ちを伝えやすくなり、イヤイヤ期の過ごし方も変わってきます。言葉とベビーサインを使って、たくさんコミュニケーションを取っていきましょう。

幼児期のお子様へおすすめワード!!

公共のことば

はいどうぞ・貸して
一緒に・入れて・順番ね

育つチカラ **社会性**

感覚のことば

冷たい・痛い・熱い
寒い・温かい

育つチカラ **情緒**

興味のことば

なぜ・どうして
なんだろう

育つチカラ **好奇心**

挨拶のことば

ありがとう・こんにちは
いただきます

育つチカラ **社会性**

想像のことば

まるで・～みたい
～のようだね

育つチカラ **想像力**

動作のことば

歩く・跳ぶ・履く・脱ぐ
着る・巻く・片づける

育つチカラ **自主性**

形容のことば

大きい・小さい・長い
短い・明るい・暗い
強い・弱い・危ない

育つチカラ **理解力**





ことばのチカラ

このことばはNG! 別の言い方を!

「だめ」

これは子どもの思考回路を閉ざす、大人にとっては楽なことばです。言い方や使うシーンにもよりますが、否定された事だけが伝わり、子どもはガッカリしてしまいます。考えること、やってみようという自主性も失くす場合があります。子どもの行動には理由があります。まずはその理由に寄り添いながらも“何がだめなのか”をゆっくりと諭すように説明しましょう。もちろん命に関わること、説明することはしない場合は除きます。

「どうして出来ないの」

出来る・出来ないは、結果を気にする言葉です。幼児期の子どもは、結果を考えて行動することが必ずできるわけではありません。だから「どうして出来ない?」と聞かれても答えることはできません。

過程を大事にしましょう。やる気があったかどうかを判断基準にしましょう。「どう考えたの?」「どういう方法でやってみたの?」と聞くようにしてみましょう。

前向きで良い言葉のシャワーをかけよう!

おもしろいね(やる気)

一緒に考えよう(共感)

それから?(思考力)

よし!(切り替え)

どれが好き?(判断力)

はじめから考えよう!
(思考・経過)



ことばのチカラ

年齢別 ご家庭でやってほしいこと

3・4
歳頃

絵本を読みながらおしゃべりの中で
「これはなに?(説明)」「何の仲間?(関係性)」と
たくさん質問をしましょう。
会話の中に「てにをは(助詞)」をつけると、
文章を作ることが得意になります。



5・6
歳頃

「早くしなさい」「ちゃんとしなさい」など、この
時期になると保護者の言葉が強くなりがちです。
「最後までよく頑張ったね」(経過を認める)
「うん、よくわかるよ」(いつも見てるよのメッセージ)
など、愛情を丁寧に伝える言葉を掛けることで
自己肯定感を高めることができます。

言語能力を促すおすすめゲーム!!

何がどうするゲーム

…主語を聞いて述語を答える

保護者:「飛行機が…」
保護者:「象が…」

子ども:「飛ぶ!」
子ども:「のっしのっし歩いた!」

何がどんなだゲーム

…主語を聞いて形容詞を答える

保護者:「飛行機は…」
保護者:「アリは…」

子ども:「大きい!」
子ども:「すごく小さい!」

何がなんだゲーム

…主語を聞いて説明を答える

保護者:「飛行機は…」
保護者:「クレヨンは…」

子ども:「人を乗せて空飛ぶ乗り物!」
子ども:「絵を描く道具!」